

事業完了（廃止等）報告書

調査研究期間等

調査研究期間	令和2年6月23日 ～ 令和3年3月15日
調査研究事項	<p>《委託研究Ⅳ》 教職員の配置・研修に関すること</p> <p>ウ. 他市町村の夜間中学や域内の中学校、近隣の定時制高校との連携</p> <p>《委託研究Ⅵ》 夜間中学における教育活動充実に関すること</p> <p>オ. 専門スタッフ（看護師や通訳など）を活用した教育活動の在り方について</p> <p>キ. 経済的負担を考慮した効果的な学校行事や校外活動等の在り方について</p>
調査研究のねらい	<p>ウ 外国語を母語とする生徒が全体の9割を超える現状において、日本語の習熟度が低い生徒に対する日本語の効果的な指導の在り方は重要な課題であると考えている。しかし、指導する教員は、個々の専門教科外である日本語指導について、免許を取得していたり、特別な研修を履修して指導法を身に付けていたりするわけではない。そこで、指導力の向上を目的とした研究を進め、外国語を母語とする生徒の日本語習得に資することをねらいとする。</p> <p>オ 保健体育の授業時に怪我の対処法や、給食後の歯磨き指導など健康管理についての指導の充実を図りたいと考えている。そこで、看護師を講師として招き、少しでも生徒の安全と健康のサポートや教育活動の充実を図ることをねらいとする。</p> <p>キ 生徒の経済的負担を考慮した、より効果的で充実した校外学習のあり方を考えるにあたり、修学旅行でバスを借り上げ、生徒の経済的な負担を軽減した上で、高齢者にとっても更に有意義な校外学習を実施することをねらいとする。</p>
調査研究の成果	<p>ウ 日本語の指導力向上を目指し、区教委にも働きかけ、本区で初めて実施された、日本語学級の教員が一堂に会する「日本語学級担当教員研修」に全員が参加した。そこで、小学校・中学校という垣根を越え、抱えている悩みを共有し指導技術の連携を行うことができた。研修後には、本校教員が日本語学級のある区内の葛西中学校へ出向き、担当教員と情報交換及び指導技術の共有化を行う等、日本語指導を通しての交流を始めることができた。</p> <p>日本語指導も含め、次年度の新学習指導要領改訂に沿った授業改善に向け、2回の研修を行い、授業計画及び評価計画を新しく作成した。特に日本語指導においては、「知識・技能」「思考・</p>

判断・表現」 「主体的に学習に取り組む態度」の3観点をどのように授業内で評価していくか、今後の課題としたい。

12月には、先進校視察のため、2名の教員を京都市立洛友中学校へ派遣した。洛友中学校は不登校特例校となっており、午後の時間帯に不登校生徒対象の授業、夜の時間帯に夜間学級の授業、夕方には両方の生徒が共に学ぶ交流授業を実施している。説明及び授業見学を行ったことで、派遣した教員から、夜間学級の始業前に地域の不登校生徒との交流授業を実施してみたいという声が上がってきた。また、昼間部と夜間学級との交流をより積極的に行っていく必要性を感じた。

オ 令和2年10月から計18回にわたり、夜間学級に看護師を招き、生徒の健康観察とともに①歯科指導、②飲酒・喫煙防止指導、③生活習慣に関する指導、④感染症対策指導を月ごとに実施した。10月に行った歯科指導では、歯の染め出しによって磨き残しを確認するとともに、正しいブラッシングの方法へとつなげることができた。そして学校歯科医とも連携し、DVDを視聴しながら歯磨き指導を行うことで、より効果的な歯科指導を実施することができた。また1月には、緊急事態宣言が発出したことにも触れ、石鹼による手洗いやマスクの違いによる飛沫飛散の実験等により、正しい感染症対策に関する効果的な指導につなげることができた。

キ 9月に予定していた修学旅行において、生徒の経済的負担を考慮し、電車や徒歩等による疲れの軽減を図る意味でバスの借り上げを計画していたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、修学旅行を中止とした。その後1月に全校生徒による校外学習を計画し、そこでバスの借り上げを再計画したが、緊急事態宣言の発出に伴い、実施が不可能となった。